

平成22年4月27日定例経営会議（要約）

（平成22年4月27日 午前9時30分～11時00分）

新たな創造 変化に対応

I 市長あいさつ

- ・昨日の臨時議会は、契約案件であったが、多くの会派からの賛成を得てご可決をいただいた。契約・入札については、「どのように競争性を担保するか」ということと、「市内業者をいかに育成するか」ということのバランスを社会経済状況を見ながら判断し、随時入札制度の精度を高めていくことが必要であろう。
- ・17日にタウンミーティングを廻田ふれあいセンターでおこなった。今回は2時間のうち1時間を地域課題に使うということで、かなり細かい地域課題が出された。
 - ・非常に住みよく、いいところだが、道路の歩道がほとんどなく、また、通学路を示す標識もないので、子どもたちの通学にとって危険である。
 - ・廻田文化センターの誘導サインが設置以降放置され老朽化している。
 - ・駅前東口の街灯のついている大きなポールがかなり錆びている。駅前にみすぼらしいものを放置しておくのと市のプラスにならない。
 - ・私道の舗装申請をして5～6年経つが、どうなっているのか。
 - ・前川は季節によって藻が大量発生するので対応を考えてほしい。
 - ・消防団員の確保に自治会も苦勞している。市ももっと積極的に力を入れてほしい。等の意見があった。また、廻田地域だけでなく全市的な課題もあった。例えば、
 - ・市長も大変だろう、悩みを聞かせて欲しい。市民も市長と悩みを共有すべき。
 - ・米沢藩の藩制改革を手本に頑張ってもらいたい。
 - ・会計年度は単年度ではなく複数年度を念頭において考えるなり、改革を推進する部署をきちんと設けたらどうか。
 - ・民間で培ったノウハウを提供したいので、今後協力させてほしい。
 - ・管理職の議会答弁について、どこまで内容を把握しているのか、もっと自信を持ってきちんと説明できるようにして欲しい。質問者へきちんと向いて、自分の言葉で語ってほしい。
 - ・教育関係では市内で10分間テストをしている学校もあり、先日では青葉小がミニバスケットボールで優勝するなど、東村山の教育関係は非常にいいと思うところもあるので、もっと積極的にPRすべきではないか。市民に情報として流してほしい。等々の意見をいただいた。
- ・先週は、部課別課題ヒアリングをおこなった。各部長は進行管理をきちんとしていただきたい。いつまでに何をしなければならぬか、どのような成果を上げているかを具体的に議会や市民に示せるようお願いする。
- ・24日、消防団の訓練で市民部はご苦勞様であった。東京消防庁の訓練指導員から、防災安全課の若手職員へ「大変熱意があり優秀だ」とお褒めの言葉をいただいたとのことである。
- ・24日の同じ時間には市民功勞表彰式がおこなわれた。秘書課、経営政策部にはお世話

H22. 4. 27 定例経営会議

になった。全部長にも出席いただき感謝申し上げる。今年は天気も良く、今まで地域で活躍し市に貢献した方々に大きな感謝の意を込めて表彰させていただいた。

- 25日は、市民センターで第2保育園の民間移管についての保護者説明会を開催し、約40名が集まった。子ども家庭部はご苦労様であった。「民営化ありきはおかしいのでは」という意見はあったが、民営化そのものに強く反対するという意見よりも、むしろ民営化に関する情報の出し方・公表のあり方について、かなり厳しい意見が相次いだ。「情報をどんどん出して欲しい」という意見である。我々は出しているつもりでもやはり伝わっていない。必要な情報を必要な人に正確迅速に伝える難しさを改めて痛感した。特に市のホームページについては、「必要な情報には、いくつもクリックしなくては辿り着けない」という指摘であり、これは子ども家庭部でトップページからダイレクトに民間移管のページに移れるように指示した。今後、各部でも大きな問題があればトップに出す等の工夫をして、せいぜい1～2クリックで辿り着けるようにしておかなくてはならない。今後一層の改善を進めてほしい。
- 私から3点お願いがある。1点目は、先ほども話した情報提供・情報共有である。今年の経営会議では、できるだけ情報発信力を高めるために何をしなければならないかを協議できればと思っている。伝達しなければならない市民にきちんと伝えきらなくてはならない。それぞれの所管で工夫していただきたいが、今年のホームページでCMSの導入に併せ、市民にとって使いやすく優しいホームページの構築をお願いしたい。使い勝手が悪いために、情報を出しているつもりが「隠しているのでは」と言われることのないようにしたい。今後の進め方・開示について、所管ごとでいいのか、全庁的なプロジェクトを立ち上げて取り組んだ方がいいのかも協議していただきたい。
また、部課長会議で経営政策部から話があったが、各部課で新しいこと・独創的なことをおこなう場合は、マスコミにリリースし、市民に伝わるよう心掛け、習慣化していただきたい。市民から「東村山はあまり新聞やテレビに出ない」とよく言われる。自分の市が少しでもマスコミに出るということは、市民にとっての誇りにもなる。市報やホームページはもとより、マスコミの協力を得て市民に伝えていくということも心掛けていただきたい。
- 2点目は、菖蒲まつりについてである。今回は、東村山駅西口の完成以降、初めての菖蒲まつりである。当市にとっては市内外からお客様を呼び込める最大のイベントである。各自治体でシティセールス、シティプロモーションの取り組みが活発化している昨今であるから、今回は、期間中だけでなく事前のPR活動についても全庁的な応援体制で進めたい。各部各課ギリギリの人員で日々の業務をこなしている中で、「またイベントで出せと言われても困る」という意見もあろうが、ぜひ各部課のご協力をお願いしたい。さらには、22名の新入職員にも研修の意味合いを含めご協力願いたい。
- 3点目は、組織体制の課題への対策である。来年23年4月1日をどのような体制で迎えるかは当市にとって正念場であると思っている。44名の定年退職者、また、普通退職者合わせれば、おそらく60名程度の退職者が見込まれるだろう。今後、どのような市役所の体制をつくり上げるかをよく考えて合意形成していかななくてはならない。方向性を間違えて、5年先10年先の市役所が弱体化することのないよう、本腰を入れて検討したい。

II 協議事項

(1) 目標管理について

—————各部からの報告について確認—————

各部から、平成22年度組織目標についての報告があり、これらを集約した確定版を、5月中旬に市ホームページで公表することとする。

(2) 第22回菖蒲まつり応援について

- ①実施期間：平成22年6月 5日（土）～20日（日） 16日間
- ②事前PR：平成22年5月17日（月）～6月11日（金）
（於・東京都庁第一本庁舎1階 観光情報コーナー）
- ③来場者概数：平成20年：7万5千人（実績）
平成21年：8万4千人（実績）
平成22年：10万人（目標）
- ④応援内容：
 - ・都庁観光情報コーナー（新規実施）
PRビデオの上映、パンフレット・マップの配布
 - ・東村山駅西口・サンパルネ（新規実施）
東村山駅改札口から西口サンパルネ産業観光コーナーへの誘導
パンフレット・マップの配布、地域ブランドのPR
 - ・北山公園・北西部地域
環境パトロール（パトロール・ごみ拾い・駐輪場整理／日・月・水・金曜）
- ⑤応援体制：
 - ・市職員
各部課から管理職、一般職、新入職員、保健師等が応援
八国山たいけんの里（菖蒲折り紙づくり）
 - ・実行委員会（商工会、市民等）
観光ガイドボランティア（新規実施）
人力車、シャトルタクシー、スタンプラリー、花菖蒲ポット販売、
水と緑のわくわくマップ（うどん屋さん紹介）等
 - ・実行委員会（西武鉄道）
「花さんぽ」ポスター掲示・A4チラシ配布（各駅）、電車内中吊広告
（2種類）、横断幕の掲示（東村山駅・JR乗換駅）、
フリー切符（ところざわのゆり園（旧ユネスコ村）のゆり展にあわせ、
東村山駅・西武園駅・西武遊園地駅でも乗降可に）
 - ・その他
マスコミ活用（5月2日「旅行読売」、新聞、ケーブルテレビ等）
北西部その他地域での案内・誘導サインの整備

Ⅲ 報告事項

- (1) 平成22年臨時窓口実施結果
- (2) 市長マニフェスト
- (3) 平成22年度職層別会議
- (4) 6月定例会提出予定案件と所信表明事項
- (5) その他

Ⅳ 閉会 副市長

以 上